



「フィンテック」(Fintech)

滋賀銀行 常務取締役本店営業部長 十二里 和彦

最近、「フィンテック」という言葉が、金融サービスに関連してよく聞かれるようになりました。「フィンテック」とは、「金融」(ファイナンス)と「技術」(テクノロジー)を融合させた造語ですが、金融を技術の力でより便利で効率的なものとしようとする試みです。

近年のICT(情報通信技術)の発展に伴い、モバイル決済やオンライン送金といった決済分野を中心に新しいソフトウェアやソリューションを開発したベンチャー企業などが、高利便・低コストの金融サービスを提供する事例が増えてきています。従来、金融業界における競争は基本的に金融機関同士に留まっていたのですが、この「フィンテック」の台頭が、これまでの競争環境を一

変させつつあります。欧米や中国に比べ遅れをとっている日本においても、昨今、メガバンクがITベンチャー企業と提携を結ぶなど、「フィンテック」活用の動きが出てきました。

当行も12月より、「フィンテック」の有望分野で、将来的には、最適な資産運用などを助言する「ロボ・アドバイザー」の第一歩として、ソフトバンクグループが販売する人型ロボット「Pepper(ペッパー)」を本店営業部、草津支店、京都支店のロビーに順次導入します。「Pepper」に搭載された人工知能を活用することで、お客さまに必要とされる金融サービスのご提供とさらなる高度化に努めてまいります、と考えております。

どうぞ一度ご来店いただき、「未来」の一端をご体感ください。

県内データ あれこれ

2014年工業統計調査(速報)

1事業所当たりの付加価値額、全国第2位 ～上位5業種で5割を占める～

このほど経済産業省ならびに滋賀県が発表した「2014年工業統計調査(速報)」によると、滋賀県の2014年1年間の製造品出荷額等*は6兆7,814億円で、前年比5.4%増加した。

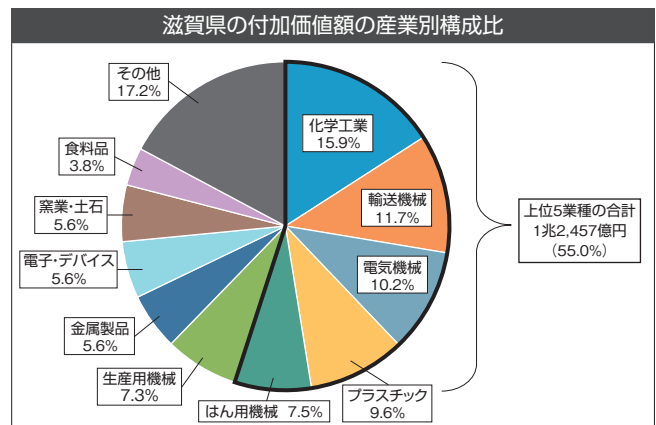
この製造品出荷額等から原材料使用額等を引いた「付加価値額」をみると、合計額は2兆2,650億円(同-1.7%)で全国第14位。1事業所当たりの金額は8億2,423万円で全国第2位、従業者1人当たりでは1,501万円で全国第6位と、引き続き高い水準を保持しており、県内の製造業の高い収益性と生産性がわかる。

さらに産業分類別の構成比でみると、化学工業が3,605億円と15.9%を占めて最も高く、次いで輸送機械(2,652億円、11.7%)、電気機械(2,319億円、10.2%)と続く。全24業種のうち、上位5業種の付加価値額の合計は1兆2,457億円と、全体の半数を超え、55.0%を占めた。

全国有数の工業県である当県には、大手メーカーの事業所やメーカー工場、研究所が多数立地し、また高い技術力と生産性を有する多

くの中小企業が存在している。企業間や県の研究所、大学等との連携によるさらなる技術力向上、ノウハウ蓄積の可能性も大きい。製造業がけん引する地域経済の持ち味を生かした活性化に期待したい。

(株)しがぎん経済文化センター 長山 真由美



*製造品出荷額等 / 製造品出荷額+製造工程から出たくず及び廃物の出荷額+加工賃収入額+その他収入額の合計。消費税等内国消費税額を含む。